

26.7.29
中国

欧州ウナギ輸出中止

来年2月以降、品薄加速

減少が著しいニホンウナギの代替品として中国経由で大量に輸入されているヨーロッパウナギについて、中国政府当局が2015年2月以降は輸出を認めないとの意向を日本国内の業界関係者に伝えていることが28日、分かった。

ヨーロッパウナギはニホンウナギに比べて安価で、人気が高い。ウナギの市場供給量が来年以降はさらに減り、安いウナギは遠くになりそうだ。

ヨーロッパウナギは国際自然保護連合（IUCN）が絶滅危惧種に指定し、ワシントン条約の取引規制対象種となっている。条約では許可証があれば輸出は可能だが、10年末以降、欧州連合（EU）が輸出を禁止している。

中国には、EUの輸出禁止前にフランスから稚魚のシラスウナギが大量に輸出され、これを養殖したウナギが「合法的な製品だ」として日本に再輸出されている。

複数の業界関係者によると、中国政府はこれまで「規制以前にフランスから輸入し、

中国の養殖池に入れられた」として日本への再輸出を認めてきた。だが来年1月中には過去に輸入したウナギが全て出荷されるとして、ワシントン条約を担当する政府部局の関係者が、それ以降の輸出はなくなると説明したという。

ヨーロッパウナギは国際自然保護連合（IUCN）が絶滅危惧種に指定し、ワシントン条約の取引規制対象種となっている。条約では許可証があれば輸出は可能だが、10年末以降、欧州連合（EU）が輸出を禁止している。

中国には、EUの輸出禁止前にフランスから稚魚のシラスウナギが大量に輸出され、これを養殖したウナギが「合法的な製品だ」として日本に再輸出されている。

複数の業界関係者によると、中国政府はこれまで「規制以前にフランスから輸入し、